

当然の行い

私は今まで、人に何かしてもらい助けてもらうことはよくあったが、自分から困っている誰かの手助けをしたことがなかった。だが、先日初めて自分から困っている人に手を貸せることがあった。

それは学校に行くまでの電車の中での出来事である。その日は一限目から授業があったので昼過ぎの時間帯のように座席が空いているというとはなく、通勤ラッシュの車内は混み合っていた。私は混雑する車両に入り、比較的人が少なかった優先座席の前でつり革を握り立っていた。

私が乗車した駅から数駅が過ぎると、私の前に座っていた人が降り、席が空いた。目の前の空いた席は優先座席ではあったけれど、早起きをした関係で眠かったのと、正直満員電車で立っている時間が長く疲れたので、ラッキーと思いながら空いたスペースに座ることにした。私の隣には、私と同じ年くらいに見える女子学生が座っていた。

私が空いた座席に座ってすぐに、目の前にその駅で乗車したサラリーマンらしき男性が来た。見た目は30代くらいのキッチリと背筋の伸びた男性だった。その男性が他の人と違った点は、手に持ったビジネスバッグにヘルプマークがついていた点だ。ヘルプマークを付けている人が何らかの手助けを必要とするのは知っていたけれど、実際に着けている人にあつたのは初めてで席が変わるべきか悩んだ。ただでさえ数秒前に確保した座席が惜しかったのと、見た目が健康そうだったので、手助けを必要としているように見えなかったからだ。誰かほかの人が代わるかもしれないと、隣に座っていた同い年くらいの女の子を横目に見ると、数秒前まで起きていた女の子は目を閉じ、眠ったフリをしていた。その行動は昨日まで私がしていた行動だった。

この時、私は目の前にいる男性のヘルプマークを見えなかったことにしてゆっくり目的地まで座席に座っておくこともできたのに、この日はそうする気持ちになれなかった。というのは、その日からさらに数日前、そのような方法で見えぬふりをした際に自分と同一年くらいの子が自然に席を譲っていたのを見て、見て見ぬふりをした自分が恥ずかしくなったことを思い出したからだ。今回また同じようにしてしまえば自分は今度一生困っている人に席を譲る勇気すら持てない、かっこわるい人になってしまう。そうなるのは嫌だと思い、わたしはほんの数秒前に座った席を立った。席を立ったはいいものの、声を出す勇気が持てなかったもので、手を使い「どうぞ」とジェスチャーで座席を譲った。男性は一瞬间戸惑っていたが、すぐに「ありがとう」といってその座席に座った。その男性と交わしたのはそれだけだったが、男性は電車を降りるときにもう一度わたしに向かって「ありがとう」と言ってくれた。優先座席に座っていて、優先座席を必要とする人にその席を譲るのは当然のことかもしれないし、かつてみた男の子のように自然に席を譲ることはできなかったけれど私はこれまで持てなかった勇気を持ち、それを行動に移せて、相手に感謝さ

れたということが何よりも嬉しかった。

最初に述べたように私はこれまで沢山の人に助けられてきた。その中には今回と同じように電車での出来事もあった。今回の出来事で気が付いたのは今まで私に手を貸してくれた人は勇気をもって私に声をかけてくれたということだ。勇気をもって人を助ける人はみんなカッコイイ人だと思う。あの時、席を譲った男性がなぜヘルプマークを付けていたのか、本当に助けが必要だったのかはわからないが、少なくとも私はこれまで私を助けてくれた人たちと同じ振る舞いが出来た。寝たふりを続けていた自分を卒業することが出来たのだ。